

平成28年 4月 8日

平成27年度 東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト実施報告書

※この報告書はHPなどで公表されます。

1. プロジェクト名 日本政治・国際関係データベース

2. 申請研究者

(氏名) 田中明彦 (所属・役職) 汎アジア政治・世界・教授

※申請研究者以外に、主要な研究協力者がいる場合はご記載ください。

(氏名) 松田康博 (所属・役職) 汎アジア政治・世界・教授

3. 研究期間

平成27年4月1日から平成28年3月31日(1年間)

4. プロジェクトの趣旨、全体計画(400字程度)

【プロジェクトの趣旨】

我が国の内政・外交ならびに国際関係にかかる重要な政治文書などをテキストデータ化して公開している「日本政治・国際関係データベース」に、未収録の文書をテキストデータ化し、同データベースをさらに拡充する。データ作成においては、以下の4点に留意する。

- ①我が国の内政・外交ならびに国際関係にかかる重要な政治文書などをできる限り網羅的にテキストデータ化し、HPで公開する。
- ②戦前および戦後の文書で、テキスト化されていないもの、WebへのUPがされていないものを重視してHPに掲載する。
- ③直近の重要文書もできる限り作成する。
- ④世界中のどんなWeb環境においてもアクセスしやすいよう、シンプルテキストでデータ化する。

【全体計画】

- ・平成27年度の予算:794,000円
- ・183件 2.13MBの文書を入力しHPで公開。

(参考: 予算申請額 1,299,000円。 入力予定件数 300件 3.5MB)

5. 今年度の研究実施状況(400字程度)

【作成及び公開ファイルの種類】

- ・戦後国際政治の基本文書(特にバンドン会議関連文書など)
- ・戦前日本外交文書(特に1800年代の政治文書など)
- ・国会外での首相演説
- ・国会外での外相演説
- ・日本の安全保障政策
- ・サミット関連文書
- ・APEC関連文書
- ・ASEAN関連文書

【データベース作成作業】

データ入力及び検証は、国際政治学の専門知識を持つ大学院生などが担当。週1回程度打合せを行い、問題点を検証しながら、重要度の高い文書を選択しながら作業をすすめた。

進捗状況管理、バイト生への入力指導、サーバへのUP作業、HTMLやCSSなどの対応、HP全般の管理、データや作成マニュアルの管理などは主に特任専門職員が担当。

アクセスログをもとに、利用数を計算し、のアクセスランキング公開している。直近のものだけでなく、約16年間の蓄積されたデータを元に総合ランキングも計算し公開している。

6. 今年度の研究成果の概要(400字程度)

【入力数、内容など】

今年度は、183件 2.13MB をデータベース化する予定で研究を進めたが、ほぼ予定通りの179件 3.04MBのテキスト文書を入力し、HPへUPすることができた。

特に今年度は、以下の件に重点を置いて研究をすすめた。

- ① バンドン会議に関する文書は、一次史料をもとに関連文書をテキスト入力するため、国会図書館などに出向き資料収集した。
- ② 1800年代の対象文書においては、原文の画像などをもとに、手書き文書をテキスト入力した。
- ③ 直近の資料である、ASEAN関連文書、サミット文書などは、関係省庁から文書が公開され次第、テキストデータ化してHPへ公開した。

【利用者数】

今年度の利用者数は、以下の通り(2016年3月末現在)

	HP 全体	文書
4月	165479	147202
5月	143716	119151
6月	157230	133582
7月	137734	111624
8月	173004	149022
9月	156566	135580
10月	160710	139010
11月	147176	124548
12月	123000	101991
1月	158112	136113
2月	116015	98951
3月	134181	113610
(計	1772923	1510384)

HP全体の利用者数は1ヶ月あたり平均約147743件と、昨年度の1ヶ月あたりの平均約139200件と比べ約6%利用者数が増えた。